

令和３年度 大阪府立高槻北高等学校 第３回学校運営協議会 議事録

日 時:令和４年１月２７日(金) (書面開催)

参加者:【委員】米津 俊司、本村 康哲、柏原 泰彦、石山 浩二、丹家 敬、栞原 綾子

【学校】校長、教頭、岩下 幸司、相澤 崇、上田 千歳、安田 正彦、藤塚 雅弘

資 料:令和３年度 学校経営計画及び学校評価(案)

令和４年度 学校経営計画及び学校評価(案)

令和３年度 学校教育自己診断結果

■学校経営計画について

「めざす学校像」と「中期目標」の承認

会長より、「上記について検討の結果、適切であると判断し承認する。」という言葉をいただいた。

■学校経営計画に関する意見・助言

Ⅰ. 学力・進学保障

(Ⅰ)教志コースの充実について

●授業を参観させていただいた感想・・・設置科目「教志コース」の授業内容が講義中心になる傾向が強いこともあり、受講する生徒の多くは、ゆっくり課題について考える時間よりも「講義記録作成」のために授業を聞いているという印象を受けた。

具体的な教育課題などについてディスカッションできるような授業が増えると、生徒は「教育」にいつそう興味関心をもち、「教師になりたい」という生徒が出てくるのではないかと思います。

そのためには、「レポート提出が目的」の設置科目ではなく、教育問題に関心をもつ授業となるように「講師」の先生方との事前の打ち合わせが重要ではないかと考える。

●大学で教職科目の授業を担当した経験から、学生・生徒たちは「いじめ」や「不登校」の問題や「生徒指導上の課題」、今日的な「カウンセリング」、「教育の意義」などに強い関心をもっていることを実感した。同時に、教職を志す生徒が多いことも実感した。ぜひ、高槻北高校の生徒の中から、一人でも多く教育に関心をもつ生徒を増やしていただきたいと思う。

●大阪教育大学の「学校推薦型の受験者」を増やすためにも、科目「教師入門」で「教師になりたい」という夢と希望を育てることが重要である。

●実地実習の事前及び事後の指導の充実

大学の授業「教育実習」でも、事後に重点を置いており、適切な表記だと思う。

⇒ 振り返りとともに課題を共有し、課題解決に向けて意見交換する場を設けたい。

●「ICT 活用能力の向上」は、学習指導要領では「情報活用能力等の学習の基盤となる資質・

能力の育成」とあるので、「情報活用能力」の方がよいのではないか。
⇒ご指摘のとおり変更する。

(2) 学力向上・進路目標の実現について

●変更点は、了解である。

●「授業以外の学習」の充実について

「教科ごとに ICT を活用した研究授業を」の下線部を削除されたのは、まず教科における研究授業の実現を優先されたのだと思う。教員間の授業研究は、時間的にも難しいですが、可能ならば年度末に「各教科」の実績を交流すると効果的だと考える。

⇒ 研究授業はバディシステムで実施中であるが、教科で話し合う機会を持つことは今後考えたい。

●図書館の利用について

生徒数減による図書室利用は致し方ないと思う。今後は、再利用者（リピーター）の要望を聞き取り、子どもにニーズに合う映像系を取り入れる等の工夫をしてみてもどうか。

⇒ 利用促進の工夫は今後大きな課題である。生徒の要望調査等を行って推進したい。

2. 学校生活

(2) 規範意識の高揚について

●自転車通学におけるマナー向上や事故防止については、保健室利用件数の観点からみれば、成果を上げていると思われる。引き続き先生方によるマナー指導を継続してほしい。

3. 学校運営

(1) 学校力の向上

●実務提要(学校内規)の効果的な活用について

具体的には、どのように教員に周知活用されているのか、また、お教えください。

⇒ 現在、大幅改定中である。他校の内規よりより精密にできていると思っている。

●教員の勤務時間について

コロナの影響により様々な教育資料を新たに作成、構築していくにあたり多くの苦労があったと思う。今回の業務は長期計画として織り込み、今後の業務負担軽減につなげていってほしい。

4. 広報

(1) 広報活動の強化

●本校ホームページはリニューアルされ、大変見やすくなった。生徒の学校内の様子がよくわかる。今後は他大学のバナー広告を増やし、進学情報をどんどん伝えていってほしい。

■学校教育自己診断に関する意見・感想

・新型コロナウイルス感染者が急増する中で、これまでの学校経営では解決できない課題が多く、管理職の先生はもとより、教職員の皆さんのご苦勞は大変なものがあることと推察する。

同時に、生徒たちにとっても、本来の授業や学校行事、部活動などの教育活動が実施できず、悶々とした日常を送っていることと思う。今回の「学校教育自己診断」の結果には、そのような実態が反映されていることが読み取れる。学校行事や部活動の関する項目において、肯定的な回答がこれまでより減少していることは現状の結果と考えられる。また、「一日の学習時間が増加したこと」や「各種検定試験の受験者が増加したこと」などは、自粛生活が反映しているのではないかと感じた。いずれにしても、生徒、保護者ともに高槻北高校に対して期待するとともに、有意義な学校生活を送っている生徒が多いことが「学校教育自己診断」から読み取れる。

【教員について】

●「私は、ICTを活用し、授業内容の効率化を行っている。」「私は、ICTを活用し、教材等データの共有化を行っている。」から授業での ICT 利用は増加しており、教材などの共有も進んでいる。文科省の「教育の情報化」にうたわれている「教科などの指導における ICT の活用」が確実に進展していることがうかがえる。これは研修などの努力によって授業改善の必要性への認識が改善しつつあるものと推察される。

一方、自由記述においては、分掌の分担格差についての指摘があり、業務整理、組織改編などによって改善していくことが望まれる。

⇒今後、募集人員の減少に伴って、クラス数も減少する。それによって教員数も一定数減少する。分掌の再編はここ数年抜本的な改革が必要であり、急務の課題である。

【生徒について】

●「学校に行くのが楽しい」から、全体の肯定的回答が87%と昨年度より向上している。「よくあてはまる」の回答について学年が上がるにつれ向上している点が素晴らしい。

●平日の授業以外での一日の平均勉強時間、「休日の一日の平均勉強時間」は、着実に向上しています。「定期考査のテスト勉強は何日前から始めますか」の項目からも全体としての学習時間が増加していると考えられる。その一方で「勉強以外のスマホ・携帯電話の1日の平均利用時間」が増加しているが、昨今は端末アプリを利用した学習手段が増加しているため、スマートフォン利用がすべて娯楽であるとは一概には言えない。今後、利用実態の詳細な内訳を調査してはかがみ。

⇒今後、利用実態把握に努めたい。

●生徒用の自由記述では文系クラスの数学の履修についての不満が散見されるが、今後文系であっても数学は必要となってくるため、授業をより分かりやすくするなどの工夫をして履修を堅持されることが望ましい。また、「今年度、漢字検定、数学検定、英語検定などの各種検定（校内・校外を問わない）を受けた（受けようと思っている）」からは、各種検定の参加は基礎学力を向上させるための動機となり得る。年々参加率が増加しているが、今後も参加率のさらなる向上を期待する。

【保護者について】

- 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」より進路指導への信頼感が着実に向上しており、「学校は、教育情報について、提供の努力をしている。」と併せて、保護者への情報提供が改善されていることがわかる。また、「将来の進路について、日頃から子どもと話をしている。」、「保護者懇談の内容や資料は充実している。」、「生徒・保護者向けの進路情報の提供は充実している。」からも保護者と生徒自身の意識も全体として向上している。